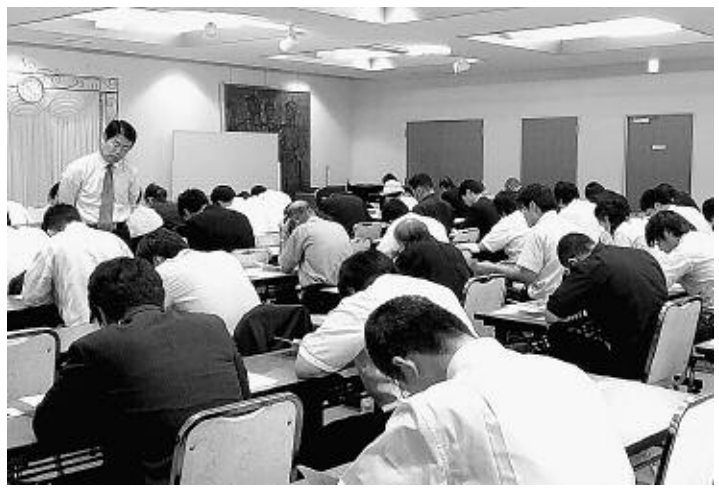
Title: 教団新報4829最終.eca Page:1 Date: 2015/11/04 Wed 11:34:14

教団新報

定 価 1部144円（本体133円〒共206円）
予約購読料 1年分 〒共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
一時移転先 169-0072 東京都新宿区大久保 1-7-18
電話 03(3202)0546、FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長崎哲夫
編集主筆 渡邊義彦
印刷所 株式会社きかんし


大阪クリスチャンセンターを会場に実施

2015年 秋季教師検定試験

補教師19名、正教師61名、転入2名受験

聴く者の心を打つ、教会の現状の見える説教を

9月15日から17日にかけて、大阪クリスチャンセンターを会場に、秋季教師検定試験が行われた。今回の受験者数は、補教師試験19名、正教師試験61名、転入試験2名、計82名であった。今回も多くの受験者（献身者）が与えられたことを感謝したい。

試験全体の印象は次の通り。まず、提出試験の釈義と説教であるが、誠実に取り組んだものも見られたが、全体的に力不足、研鑽不足であると言わざるを得なかった。ヘブライ語は困難にしても、ギリシア語原典を読んでいないと思われる釈義も多く見られた。中には、釈義と黙想の区別がついていない者もあり残念であった。また説教というよりも、聖書の解説、説明に終始し、福音の力強さが感じられない説教も少なくなかった。加えて、受験要綱には、教会での礼拝を想定して、と指示して提出を求めているが、説教から会衆が見えてこない説教も多かった。教会と会衆を愛する者としての説教であったかどうか考えさせられた。釈義、黙想、説教は、牧師として最も重要な務めの一つである。この業に対する誠実さを大切にしていただきたいと願うばかりである。

筆記試験の印象は次の通り。全体として、補教師、正教師ともに、よく準備して臨んだ者と、そうでない者との差が大きく出た結果となった。教科ごとにも準備の差があらわれており、面接時に自覚して話す者も少なくなかった。

科目ごとに言えば、「教憲教規および諸規則・宗教法人法」の試験は、出題の意図を読み違えている解答が多く目立った。今回は特に根本的なことを問うたが、明確に意図をつかんで答えている解答が少なかった。旧約聖書神学は、全体的に旧約聖書を読み込んでいない印象を受けた。普段から旧約聖書を読んでいない結果と思われる。当たり前のことだが、教師には常日ごろ旧約聖書をしっかりと読むことを心がけていただきたい。新約聖書神学は、出来ている人とそうでない人の差がはっきりと出た。総じて、緒論的定義が分かっていない人が多い印象を受けた。教会史は、正教師への出題が今回は1問だけであったが、正教師に問うにふさわしい問題であったと言える。教師がそれぞれの教会で、教会員や求道者から聞かれると思われる事柄が出題された。実際、三位一体について、聖書学的、組織神学的に答えることも重要であるが、教会史的に答えることも重要だからである。

現在、試験の結果で判定が保留となった者たちの再レポートの提出と採点が行われている。最終結果はそれを経てからとなり、10月19日から開催される常議員会に報告され、確定されることになる。

最近の教師検定試験の傾向として、補教師も正教師も、会社などの引退後の受験者が多くなってきている。このような形で献身者が与えられることは、神さまの恵みであると言える。とは言え、ある程度年齢が重なると、全てを同じように準備することが難しいケースも当然出てくる。また、提出試験の量は多く、筆記試験の科目も高齢の受験者には、体力的に負担も大きいと思われる。その結果、準備不足で不合格になってしまうケースも少なくなかった。

今回の面接試験は、個別面接時に最初に問う文言と答えに含めて欲しい単語を全体会で提示し、自身の言葉で答えるよう促した。結果、作文的な答えもあったが、それぞれの言葉を聞くことができ、面接を試験として行う意義を感じることができた。春の試験でも同様の方法を検討している。

Cコースガイダンス・面接では召命観を確かめつつ、実際の学びの方法などについても話し合った。Cコース受験者の学びと研鑽の問題は今後の課題となるであろう。

Cコース認定面接には3名の希望者があった。それぞれに召命を問いつつ、教団の教師として立つことの意味を確認できた面接となった。

（服部 修報）

全体会にて委員長講評に聞く

2015年秋季・正教師検定試験問題

教憲教規および諸規則・宗教法人法（60分）

次の2題に答えてください。

1．『教憲教規および諸規則』は「日本基督教団信仰告白」から始まっていますが、その意味を「公同教会」の理解に基づいて論じてください。

2．「宗教法人法」の理念を、当該条項をあげて述べてください。

旧約聖書神学（60分）

次の2題に答えてください。

1．旧約聖書におけるとりなしについて、いくつかのテキストを挙げつつ、論じてください。

2．次の2題のうちから1題を選び、旧約聖書のいくつかのテキストを挙げつつ、論じてください。

①祝福と呪い

②選びと伝道

新約聖書神学（60分）

次の2題に答えてください。

1．パウロ書簡における創造の理解について、いくつかのテキストを挙げつつ、述べてください。

2．次の2題の内から1題を選んで、答えてください。

①ルカによる福音書と使徒言行録における歴史理解について、述べてください。

②ヨハネによる福音書におけるキリスト論について、述べてください。

教会史（60分）

次の1題に答えてください。

・古代から現代にいたる教会史上における「三位一体論」の論争の諸要点を、人名や事項の固有名詞を付しつつ、述べてください。

講評

秋季試験は、正教師を目指す方が大半を占めます。2年以上、伝道牧会に従事し、神の御前で改めて自身の召命を問い、献身の思いを新たにする。正教師試験にはそのような側面が強くあります。今回は、特に面接試験において、召命と献身の志を問い、表明していただきました。主がその思いを全うしてくださることを祈るばかりです。

筆記試験は、教師として必要な知識、また根本的なことを問わせていただきました。しかし、複数の科目で合格点に達しなかった方たちがいました。残念なことです。

提出試験の説教についても、全体的に力不足が否めませんでした。聴く者の心を打つメッセージに欠き、また教会の現状が見えてこない説教が大半でした。御言に誠実に向き合い、主の御体である教会を愛し、もっと力強く福音が語られることを願ってやみません。

39総会期教師検定委員長 鷹澤 匠

荒野の声

データで文章のやり取りするようになり情報の往来は格段に増え、また便利になった。手元に残す資料もデータ化で保存方法も変わった。しかし、それで紙媒体が減ったかと言うと、筆者においては、そうではないように思う。数値化したことは無いので印象ではある。個人の印刷が格段に容易になったことでプリントアウト、配付される資料もかえって増えたのではないか。出席しなくてはならない会議も増えたこともあるが。▼電子書籍も利便性や好みもあろうが、どうも手元に紙の本がないと落ち着かない。印刷、製本された本を床から積んでみると、自分の背丈を優に越えるほどになる註解書シリーズを電子書籍で購入したが、結局、必要部分をプリントアウトして持ち歩くことになった。確かに本棚の省スペースになってはいる。▼ニュースも文字にすることで現時点の情報、把握、考え方を固定できる。しかし、時間と共にニュースが新鮮さを失うことも必然だ。真実をすべて書き残せるわけでもない。けれども、たとえ一時点の断片でも文字に固定し何らか媒体に残すことが必要だ。書き残されたことの正否、価値は後の時代が判断することであったとしても今を切り取り書かなくてはならない。このことが本紙の使命と改めて肝に銘じている。

Title: 教団新報4829最終.eca Page:2 Date: 2015/11/04 Wed 11:34:18

▼予算決算委員会▲

16年度予算、負担金2％減、委員会費10％減

第3回予算決算委員会が、全国財務委員長会議を挟む日程で、9月28日から29日に日本基督教団小会議室にて行われた。

2016年度予算案を作るにあたって、各教区の負担金を対前年度比2％減となるように極力努力した。昨今の各教会や教区の財政状況から見て、2％減という削減幅を不充分とする評価も受けそうであるが、ただ、東日本大震災の年に3％余りの削減を行った以外は1％の削減幅（2015年度に関しては前年度と同じ）で推移してきており、今回の2％削減はかなりの緊縮財政ということになる。このためほとんどの委員会において活動費の10％削減する案となる。2016年度の予算案については提出された原案に対して、日本キリスト教会館の関連工事の支出でなお精査が必要と判断し、慎重に検討した結果、10月13日に常任予算決算委員会を招集して、そこに委ねることとした。

負担金の配賦額を計算するにあたっては、昨年度導入が決まった新たな計算式が用いられ、配賦額はその計算式通りに算出し予算に盛り込んだ。

今年度の全国財務委員長会議を計画するにあたってマイナンバー制度の学びを取り入れたことは特筆すべきことである。各教区の財務や会計担当者がマイナンバーを預かることになるが、現時点では事の重要性についての認識と自覚を持つに至っていないことを危惧し、きっかけ作りをしたいとの意図で盛り込んだ。教区のみではなく、各教会や附属幼稚園と保育所の会計についても同様の問題が波及することになるため、今後の情報収集と学びがさらに必要となることが確認された。

（長谷川洋介報）

全国財務委員長会議
各教区、財政状況の厳しさを報告

▼全国財務委員長会議▲

第1回全国財務委員長会議が、9月28日～29日に教団会議室にて開催された。

第1日目の会議の冒頭、長崎哲夫総幹事より挨拶がなされ、挨拶の中で、耐震工事が行われている日本キリスト教会館の引き渡しは、来年2月になること等の報告があった。この後、各教区からの財務状況報告の時間が持たれ、多くの教区が、現住陪餐会員減少に伴う厳しい財務状況が続いていることを報告した。これに関連して、教区互助制度についても、厳しい財務状況に伴い、その運営に苦慮していることが多くの教区より報告された。また、負担金未納教会問題や、伝道資金について述べる教区もあった。

そして、2016年度予算案と負担金割賦について、愛澤豊重予決委員長より詳細な説明が行われた。特に、次年度の予算案編成関して、多くの支出科目で10％の削減を行い、各教区に割賦する負担金の総額は、昨年度予算と比較して、2％減になっていること等が説明された。

第2日目は、出版局と年金局の報告の後、今回の全国財務委員長会議のテーマであった「教団の現状と将来構想」につき、教団将来構想検討委員会の望月克仁委員より発表が行われた。「教団年鑑2015年データ」を中心に、今後の人口動態にも言及し、2050年の現住陪餐会員数は、現在の4分の3の、約65万人になることが指摘された。これは、現在の現住陪餐会員は、60歳以上の会員の割合が63％であることも、その要因の一つだとの説明があった。しかし、望月委員は、他の宗教団体と比較すると、まだ若年層の割合が高いことが希望であるとも述べた。これに対する質疑の中で、こういう状況にあるからこそ、教団が一致して伝道する必要があるとの意見が出された。

最後に、鈴木功男委員より、間もなく施行される「マイナンバー制度」についての説明があり、教区としても、また、教会としても、この制度に対応するための準備の必要性が指摘された。

祈りをもって2日間にわたる会議を終了した。

（宇田　真報）

▼宣教師人事・支援委員会▲

宣教師受入れ手続きについて議論

第2回宣教師人事・支援委員会が9月24日、教団会議室で開催された。

開会祈祷、前回議事録の承認後、(1)新しい宣教師の承認の件、(2)北米宣教師に関する件、(3)韓国宣教師受入れ正式ルート確立のための協議会開催について、(4)宣教師の成果報告の様式の簡略化について、協議された。

(2)の北米宣教師に関しては、ウィットマー宣教師夫妻の北海教区での40年以上に亘る奉仕からの引退、新任宣教師の就任等の承認を行った。また(3)の韓国人宣教師受入れについては、招聘性との関連もあるが、これまでは個人や任意団体によって各個教会に「宣教師」が紹介されるケースが散見され、人事委員会としての機能が十分に発揮されてこなかったとの認識を共有し、これは教団全体の議論が不可欠との判断から常議員会での場で十分に議論を尽くされるべきと指摘された。それを踏まえた上で韓国3教団との「準備のための協議会」を開催することを承認した。

報告事項では、(1)世界宣教委員会、(2)韓国・スイス・台湾協約委員会、(3)宣教師人事委員会、(4)宣教師支援委員会からの報告があった。(1)の世界宣教委員会からは、SMJキャンプ、日独ユースミッション、EMS・ドレッシャー幹事来訪、RCA・バエツ副局長来訪、(4)宣教師支援委員会からは宣教協力学校協議会との新規プロジェクトが開始されることが報告された。

また宣教師会議2016は2016年3月23日～25日に仙台で開催予定であること、キリスト教学校6校から新しい宣教師を送って欲しいとの依頼があること等が報告された。

（荒川朋子報）

▼世界宣教委員会▲

ブラジル・小井沼宣教師報告を受ける

第3回世界宣教委員会が9月18日教団会議室において行われた。

ブラジル・ペルナンブコ州オリンダのアルト・ダ・ボンダーデ教会に遣わされていた小井沼眞樹子宣教師による帰国報告会が持たれた。

小井沼宣教師は、現在のブラジル社会が抱える問題をあげ、アルト・ダ・ボンダーデ教会が立っている地域も、さまざまな問題、課題に直面していることを話した上で、教会がこの地域にあってどのように宣教してきたか、そして今どのようなことに取り組んでいるかなどを熱く、また丁寧に報告した。小井沼宣教師はそこでの働きを終えて、新たにバイア州サルバドールの教会で宣教師としての働きを続けることになっており、同宣教師の働きが祝福されるようにと一同で祈りを合わせた。

また、今回の委員会では、現代の若者たちに有効なメディアを使ったコミュニケーションを考える時期であろうとのことから、世界宣教部としてフェイス・ブックを開設することが提案され、意見を交換した後、これが承認された。

その他、在外教師の活動報告や海外の教会の動向などいつもながら時間が足りなくなるほど沢山の報告がなされた。世界宣教部スタッフの扱う事項の多さに毎回驚かされている。

（吉岡光人報）

◆被災幼児施設担当者会◆

放射能被害について課題を共有

東日本大震災は多くの子どもたちとその家族とに不安を与えている。一つは地震と津波とによる幼児施設の建物被害に始まる困難と子どもたちとその家族の被災である。もう一点は原発事故による今なお続く放射能汚染による不安である。そこで、教団では、対策本部の下に被災幼児施設担当者会を設置して、この課題に向き合っている。

同担当者会は今まで、建物のこと、また、避難園児保育料補助、一時避難児受入施設への支援、除染費用の補助、被災職員への見舞金などを援助した。また、幼児施設ゆえに公的援助についての助言も行ってきた。そしてまた、幾たびも諸施設を問安し、現状把握に努めてきた。

去る9月16～17日にも東北教区のいくつかの施設を訪問した。担当者会としてはじめて「いずみ」（東北教区放射能問題支援対策室）を訪れ、「いずみ」の取り組みについて特に子どもたちに関わることについて話を聞いた。福島のみならず宮城県南地区での甲状腺検査の状況、千葉、茨城のいわゆるホットスポットの地域でのデータなどに驚かされ、課題を共有した。また、保護者が食品について注意深く選択して子どもたちに与えている場合と、そうでない場合との被ばく状況に違いが表れていることを知らされた。

施設訪問は3つの施設を訪問した。ある施設は東日本大震災以前の2007年の地震でも被災し、また、訪問前の週の大雨でも地域が床上浸水などの被害を受けた地域である。しかし、明るく子どもたちを見守り、特に運動会に向けて意欲的に取り組んでいる姿に励まされた。また、ある施設は、観光地に位置し、放射能被害について公にできない痛みを抱えている。しかし、公にしないという約束のもとで、地域全体で園庭の除染作業が行われたことを聞いた。その施設が長い間、地域に根ざし、しっかりとした信頼関係のなかで歩んできた証詞に違いない。痛みの中でも絆が表れる一面でもあった。

今後の課題として、放射能数値の高い地域の子どもたちの「園外保育」の手伝いを担当者会としてコーディネートできないかということが挙がっている。また、なお放射能被害について適切な対応ができていない幼児施設への意識啓発の使命も挙げられる。

（岸　憲秀報）

公　告

教師検定委員会では、教師検定規則第6条⑥に基づき、同規則第3条6号対象者（所謂Cコース受験者）に対する認定面接を左記のように実施します。

2016年秋季試験以降に新たにCコース受験を志願される方は、本委員会の指定した書類を2016年1月21日（木）までに提出いただき、下記日程の面接に出席ください。なお、面接要領・提出書類用紙については、百円切手を同封の上、本委員会事務局に直接申込みください。

★認定面接

日時　2016年2月25日（木）15時～（予定）

場所　日本基督教団信濃町教会

なお、認定面接予定者には、書類受付後、案内文を送付します。

2015年10月24日

日本基督教団教師検定委員会

〒169－0072 東京都新宿区大久保1－7－18－4F

（電話03－3202－0546）

Title: 教団新報4829最終.eca Page:3 Date: 2015/11/04 Wed 11:34:22

▼伝道委員会▲

関東・東北豪雨被害について報告

第3回委員会が9月15～16日に行われた。会場は1日目が安行教会、2日目が武蔵豊岡教会であった。いずれも関東教区埼玉地区の教会で、かつて開拓伝道援助を行った問安を兼ねて訪問した。実際に現地を訪ね、いずれの教会でも教会員と共に祈祷会を持つことにしている。

今回の委員会は、甚大な被害をもたらした関東・東北豪雨の翌週に行われた。開会礼拝は、関東教区副議長でもある熊江秀一委員の奨励であった。茨城県常総市にある水海道教会における会堂、牧師館、付属施設の浸水の被害の報告を受けた。また、ボランティアセンターが開かれ、教区としての支援体制を築いているとのことである。関東教区内で度重なる自然災害の被害を受けているが、祈りを大きくする機会ともなっている。主にある救いへとすなどるために網を打つように、様々な教区の連帯を実現させる活動がなされていることが伝えられた。それを受け、皆で祈りを合わせた。

議事としては、前回委員会議事録を承認し、業務報告及び会計報告を承認した。また、常議員会報告、東日本大震災救援対策本部報告を受けた。担当委員から、伝道推進室委員会報告、宣教委員会報告、「こころの友」「信徒の友」編集委員会報告、日本基督教団教誨師会報告を受けた。

また、2015年度前期貸出金に関する件で、兵庫教区の飯盛野教会の会堂補修の申請を承認した。伝道推進室が伝道専任幹事を求めているとの要望を受け止め、これを宣教委員会に提案することを承認した。

2016年2月22日～24日に北海道・瀬棚町で酪農を主題に開催予定の「農村伝道に関する協議会」、2016年9月に行われる第39総会期教区伝道委員長会議に向けて、準備を進めた。伝道力を上げるために、これらの集会をいかに活用できるか議論を重ねた。

(飯田敏勝報)

開拓伝道援助教会を問安（埼玉・安行教会）

◆伝道推進室主催「伝道キャラバン」・福島地区◆

福島11教会・伝道所、学校、幼児施設にて奉仕

9月12日から15日にかけ、伝道推進室主催の福島伝道キャラバンが行われた。教職7名、神学生4名のキャラバンが福島に到着すると、現地の牧師に迎えられ、早速奉仕。二手に分かれ、一つは大平伝道所の礼拝、もう一つは保原教会近隣でのトラクト配布をなした。

翌13日は信夫教会の早朝礼拝に出席した後、各教会に分かれて主日礼拝の奉仕であった。福島地区は保原教会、福島教会、福島新町教会、信夫教会、川俣教会、飯坂教会（午後）、福島荒井教会、福島伊達教会、また伝道応援の講師派遣として磐城教会、郡山教会と土曜日の礼拝も合わせて11教会・伝道所の礼拝で奉仕した。午後は福島地区の卓球大会が福島伊達教会を会場に行われ、各教会より参加者が集まり、教団総会議長杯と銘打って熱い戦いが繰り広げられた。バーベキューを挟んで福島地区合同夕礼拝がなされた。

14日、キャラバンは二手に分かれ、一つは聖光学院中学高等学校のチャペル、もう一つは伊達保育園、飯坂恵泉幼稚園の礼拝に参加。石橋秀雄牧師（伝道推進室室長）の腹話術や手品によるメッセージに子どもたちは目を輝かせていた。

午後は福島教会で福島地区の懇談祈祷会が福島教会にて行われ、各教会から教職・信徒が集まって語り合い、祈りを合わせた。

15日、福島愛隣幼稚園の礼拝に参加。白井真牧師がメッセージ、神学生たちは子どもたちと楽しく遊ばせてもらった。

「イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった」（ルカ8・1）。主イエスが神の国の福音を告げられる伝道キャラバンに、弟子たちは招かれ共に旅をした。

今回の伝道キャラバンも、主が福島の町を巡って神の国の福音を告げられる旅にお伴させていただく経験であったと言える。福島に建てられている教会・伝道所に生きる信徒・教職、幼稚園・保育園・学校関係者の方たちと共に神の国の福音を聞き、礼拝をささげることがゆるされた幸いを心から感謝する。

(小林克哉報)

議長杯卓球大会（福島伊達教会）

予算決算委員会

献金による予算

愛澤　豊重

予算決算委員会は第39総会期3回の委員会と9月28日から29日に全国財務委員長会議を行いました。

予算決算委員会の本務は教団の予算案、決算案の作成とその執行にあります。その予算の収入は基本的に教会員の献金です。このことは決して忘れてはいけないことだと心がけています。大きな数字だけ見つめていると、そのことをつい忘れがちになってしまいます。いつも自戒していることです。

委員会コラム

現在課題となっている2016年度予算編成に当たっては、そのことにどれだけ留意することが出来るのかが問われました。昨年度は負担金総額を上げないということで予算を組ませていただきました。しかし、教会員数も献金総額も減少する中では、上げないと言われても実質的には上がっているとの声が寄せられました。

確かにそうです。2008年度から2013年度（これが2016年度の負担金を算定する基礎数字になっています）までの6年間で経常収入、経常支出はともに7.1%減少しています。その間、負担金も減少させてはいるのですが、追いついていません。そこで出来るだけ教会の負担を重くしないようにと収入支出の検討をしました。結果2016年度は前年度負担額の2%、521万円の減という予算案を編成しました。これは2004年度にくらべて2558万円少なくなっています。なんとか教団の運営をこの金額で行うことが出来るように願っています。

(予算決算委員長)

関東・東北豪雨被害

水海道教会の被災状況について

9月10日までに北関東を中心に降り続いた大雨は、鬼怒川の堤防の決壊とそれに続く幾つかの河川の氾濫をもたらした。

10日の夜、茨城・水海道教会に電話で安否確認をした際には、加藤久幸牧師からも無事を確認していたが、11日未明から徐々に水が上がりはじめ、結果的には会堂が床上30～40㎝、牧師館は床上50㎝まで浸水した。

この浸水によって、会堂・牧師館の生活用品・電化製品などはほとんど使用不能となり、自家用車も2台廃車にせざるを得なかった。やっと9月27日から、礼拝堂にて礼拝が守られるようになった。浸水被害は会堂・牧師館にとどまらず、隣接する「認定こども園双葉こども園」にも大きく及んだ。5年ほど前に新築した「育ちサポートセンター」、また現在建設途中の保育施設に代わって使用している仮園舎もすべて使用不能となり、園バス3台も廃車となった。

教会の信徒宅も甚大な被害を受けている。信徒のある方は、早速発行された水海道教会月報に次のような文章を寄せている。『大切なものは奪われていない』というタイトルで「この度の水害で床上150㎝の浸水にあいました。…電気製品、客用布団、パソコン周辺機器、一部の書籍、写真、書類、履き物全部、その他生活用品の多くを失いました。こんな目にあって思うことは『生きて行く上で必要なものはそれほど多くない』ということです」とある。なお、この月報によると、発行日の27日現在で把握されている被害状況は、教会関係者13名、教職員26名中10名、園児関係18名中約50名とある。

13日午後に早速茨城地区の牧師たちが水海道教会に集まり、急遽『水海道教会ボランティアセンター』の立ち上げを決めた。9月30日に活動を区切るが、9月23日のシルバーウィーク終了までは一日平均35名のボランティアにより、水海道教会の信徒宅を中心に奉仕がなされた。感謝。

(福島純雄報)

会堂、園舎、バスも水没

◎水海道教会被災支援募金

郵便振替00140-3-67727 日本基督教団関東教区

訃報

高橋定男氏（無任所教師）

14年5月2日逝去、88歳。54年関西学院大学大学院を卒業、同年大阪津田伝道所に赴任。大阪大道、前原教会を牧会。

高橋幸一氏（隠退教師）

15年9月6日逝去、76歳。東京都生まれ。72年東京聖書学校卒業。同年より泉町、下総旭町、下田、野田教会を牧会し、96年に隠退。遺族は妻・高橋久世さん。

木村勝則氏（幕張教会主任担任教師）

15年9月17日逝去、61歳。茨城県生まれ。79年農村伝道神学校卒業。同年より小平学園、付知、日野原記念上尾栄光、幕張教会を牧会。遺族は妻・木村清子さん。

Title: 教団新報4829最終.eca Page: 8 Date: 2015/11/04 Wed 11:34:26

宣教師からの声 番外編

モーリー夫人と2ドルの献金

森 泰一郎
（鎮西学院院長）

ネルソン・ガブリー、モーリー・ガブリー夫妻

鎮西学院は、1881年（明治14年）10月、長崎の東山手に北米メソジスト教団の宣教師C・S・ロング夫妻によって創設されたカブリー・セミナリーを前身としている。日本語では、『加伯利英和学校』と表記された。ロング宣教師は、当時、長崎で発行されていた『西海新聞』や『鎮西日報』に盛んに生徒募集の広告を出している。英語速習の方法を教授するというものである。

外国人2名、助教1名と日本人教師をスタッフとしており、週5日の夜学も開講している。夜学の謝金は、毎夜2銭だった。昼間部は、英語のほかにも漢文も教授しており、8時30分～12時、午後は、1時～3時が授業時間となっており、謝金は、3ヶ月で1円であった。寄宿舎もあり、1ヶ月食費3円50銭とある。

多くはカブリ学校シー・エス・ロングの名前で広告が出されたが、中にはカブリフ学校シー・エス・ロングの名前でも広告が書かれており、明治時代の香りが漂う。

このような広告が功を奏したのか、明治16年に書かれたロング宣教師の日記には、開学の時に18名の学生が集まったと書かれている（鮫島盛隆「シー・エス・ロング日本宣教記」1974年刊）。

ここで、校名にもなったカブリーとは、いったい誰なのか。ロング宣教師の1881年11月29日の日記には、「この学校は、…親愛し尊敬する旧師の追憶の祈念塔として建てられた」（鮫島前掲書P35）と記している。

実は、ロング宣教師夫妻が日本に派遣される直前に母校テネシー・ウエスレヤン大学で送別会が催され、その席上、敬愛して止まなかった故・恩師ネルソン・E・カブリー博士（英語表記では、コブレイの方が正しいと思われるが、ロング宣教師は、あえて日本人にとって発音のしやすいカブリーと表現したのであろう）の夫人モーリー・V・カブリーが日本の青年たちのためにと2ドルの献金を捧げた。それが契機となって多くの人々から献金が集まり、それを基金にロング宣教師は、長崎で男子校を設立したのだった。すでに2年前に同じ北米メソジスト教団のラッセル宣教師が、長崎・東山手に活水女学校を始めていた。

ロング宣教師は、まさに敬愛して止まなかった恩師の名前を学校名にしたのだ。そのネルソン・カブリー博士については、若干の史料が残っている。

ネルソン・E・カブリー博士は、1814年にテネシー州に生まれ、長じてテネシー・ウエスレヤン大学を1843年最優秀の成績で卒業、9年間をニューイングランドで牧師として活躍。その後、夫人の健康のために、イリノイ州のMckendreeカレッジの教授となった。後年、同カレッジで学長となった。1863年には、Zion's Herald誌の編集長も兼務していた。1863年には、彼自身の健康のため南部へ移りアセンズのテネシー・ウエスレヤン大学の学長となった。

1872年には、ジョージア州アトランタのMethodist Advocateの編集長となった。ネルソン・カブリー博士のテネシー・ウエスレヤン大学の在任は、1863年～1871年ということになる。まさに、同博士の在任中の教え子が、ロング宣教師なのだ。大いに薫陶を受け、ロング宣教師の人生の指針となったのが、同博士だった。

牧師としてのカブリー博士は、説教の名手であり、編集者・書き手としての同博士は、名文家としても有名であったと伝えられる。1864年・1868年・1872年のメソジストの総会のメンバーでもあった。1874年にジョージア州アトランタで没。

モーリー夫人の詳細については分かっていない。ただ、鎮西学院は、モーリー夫人の2ドルの献金の精神を今も受け継ぎ、長崎ウエスレヤン大学では、短期大学の開学時代以来、大学祭を2ドル祭と名付けている。

因みにカブリ英和学校から鎮西学館へと校名変更したのは、1889年（明治22年）、現在の鎮西学院となったのは、1906年（明治39年）のことであった。鎮西学院は、2度の火災に遭い長崎市東山手から長崎市竹ノ久保へ移転したが、1945年原爆に被災。1947年に長崎市近郊の諫早市へ移転して65年を経過した。

モーリー夫人の2ドルの精神を受け継ぎ、長崎ウエスレヤン大学では、世界で貧困や病に喘ぐ青少年のためにボランティア活動を展開しているが、何れの日にか彼等のために何事かを為したいと考えている。

（Kyodan Newsletterより）

PROK／PCK総会出席

9月14～17日の日程で行われた韓国基督教長老会（PROK）と大韓イエス教長老会（PCK）のそれぞれ記念すべき第100回総会に出席を許された。両教会の総会日程が重なっていたので、14～15日はウォンジュ（原州）ヨングァン教会で行われたPROK総会に出席し、16日はチョンジュ（清州）のサンダン教会で行われたPCK総会に出席することとなった。第100回の記念総会であり、海外諸教会からのゲストもそれぞれの総会で60名から80名に上った。また両総会共にゲストのために特別なスケジュールを組み、次世代のリーダー育成、各地域での移民問題、和解と一致、等についてのワークショップを企画するなど工夫を凝らし、総会全体がこれまでの歴史を踏まえながら世界の教会の将来に向き合う内容となっていた。

また両総会の中心となる礼拝では海外諸教会からのゲストも様々な場面に用いられ、聖餐式の配餐や平和の挨拶などにもあたり、全員で形作る礼拝の姿がそこにあった。PCK総会の記念礼拝では総勢700人を越える聖歌隊が組まれ、オーケストラと合わせると約800人での賛美がなされた。また全国からの長老で組織された聖歌隊の歌声は素晴らしく、各老会旗の行進にも驚かされた。それぞれの記念礼拝は約3000人を収容する礼拝堂で行われたが、人が溢れ、他会場も用意されたようであった。両教会共に平和、和解、一致というテーマを持った総会であり、礼拝プログラムや礼拝説教にもその内容が豊かに盛られ、信仰の力に溢れた礼拝であった。

それぞれの総会で新しく選任された議長・副議長は、PROKがチェ・プオク議長、クォン・オリュン副議長、PCKがチェ・ヨンナム議長、イ・ソンヒ副議長であった。議事を取り扱う総会会場での傍聴もPROKで僅かの時間許されたが、活発な発言が続く中、神への信仰と互いの信頼を基盤として議事が展開されており、感銘を受けた。

それぞれの総会会場が離れており、移動に時間も要したが、総会期間中に文化に触れる場や農村部の教会訪問もあり、有意義な時となった。両教会に心から感謝し、主の祝福を祈るものである。

（佐々木美知夫報）

PROK総会、開会礼拝

麻修須宣教師

この10月、1年前フロリダで逝去されたオールデン・エヴァルト・麻修須（マシュウズ）先生の遺骨を、ずっと遺言されていた通りデリス夫人が眠る境南教会墓地と青山墓地の宣教師墓所に、親しかった者たちが集まって埋葬することができた。

私が武蔵野の境南伝道所に招聘されたのは、今から47年前の1968年末だった。そこに東神大の熊沢義宣先生と教団幹事の麻修須御家族がおられて私は様々な局面で両先生から学び、励まされた。

麻修須先生はシカゴ大神学部から、当時UCBWM（今のUCC、CoC及び教団幹事として卓越の米国組合教会と複数教派との合同教会）の宣教師で、戦前父君が伝道された中国・福州に戦後派遣された。しかし、間もなく文化大革命が起ころうというころ来日し、京都の同志社を経由し東京の日野台教会（室野玄一牧師）を拠点とした農村伝道神学校創設にストーン宣教師らと共働。同神学校の教壇にも立った。以降、IBC／JNAC・CoC及び教団幹事として卓越の人格、識見をもって奉仕した。この間、先生の生涯のハイライトは、いわば教団のスーパーバイザー、とは言われなかったが、その行動は全く忍者風、神出鬼没で、人に分からず知らせず其処此処の牧師・家族・教会役員から、CPE（臨床牧会教育者）として「聞き」に通い続けたことだ。だから先生と教会生活は常に一緒であったのに、周囲が先週の礼拝には見えなかった等と尋ねても知らぬ存ぜぬだった。今日、宣教委員会が考えている「牧会者と家族のための相談室」等の先駆けだった。

（教団総幹事 長崎哲夫）

ひと ときと

古谷 道子さん

高知・須崎に育ち、暮らす

古谷道子さんは生まれも育ちも須崎で、結婚してからも須崎に住んでこられた須崎人。家も教会のほぼ向かいにある。ちなみに実家はおいしい干物屋とのこと。

教会学校の小学科がきっかけで教会に通い始めたが、「教会はいい人が行くイメージ」があってしばらく遠のいた時期もあった。30代の頃、「自分は何で生まれたのだろう」その意味を知りたいという思いを抱き、答えを求めていた。ある特伝でペトロの裏切りの話を聞き、人間本来の罪の姿を知らされ、「自分でも（教会に）来られる」という思いになった。ノンクリスチャンの夫の勧めで子どもを須崎教会附属の幼稚園に入園させたのを機会に、教会に戻ってきた。以来、教会では二番目くらいの古株になった。

須崎教会の歴代牧師、また夏期伝道実習で訪れる神学生は、古谷さんの家庭で育てられたという。家が近いこともあり、胃袋はもちろんのこと、夫妻との会話や日常生活の中で成長させられるそうだ。牧師を育てる信徒として、優しさだけでなく、時には厳しいことも言う。

古谷さんをはじめ、須崎教会の信徒は何が一番大切なのかを分かっているという。それは、礼拝が全てであるということ。だから、ここで礼拝を続けることが伝道だと考える。そして何事も聖書から聞こうとするので牧師も安心できるということだ。どんなに困難な状況でもそれがブレない。

高知県は人口流出率が全国的にも高い。特に須崎市はその傾向が顕著だ。地域や教会の周りの環境について考えれば明るい要素は無いけれども、悲壮感は全くない。開き直りではなく、御言葉にこそ力がある確信があるからだ。この確信があるからこそ「行け行けどんどん！」と進める。厳しい中でも教会は必要とされる限り立ち続けるのだから大丈夫。必要なものは備えられる、と神を信頼して歩み続ける。

須崎教会員。